

電気用品安全法の技術基準の解釈 別表第十二に提案する規格の概要

担当小委員会	第 108 小委員会
事務局	一般社団法人 ビジネス機械・情報システム産業協会 (JBMA)

<規格情報>

規格番号（発行年）	JIS C 6950-22 (2019)
対応国際規格番号（版）	IEC 60950-22（第 2 版:2016）
規格タイトル	情報技術機器－安全性－第 22 部：屋外に設置する機器
適用範囲に含まれる主な電気用品名	<p><特定電気用品></p> <ul style="list-style-type: none"> 配線器具－その他の差込み接続器 交流用電気機械器具－直流電源装置 <p><特定電気用品以外の電気用品></p> <ul style="list-style-type: none"> 電動応用機械器具－電気鉛筆削機、謄写機、事務用印刷機、あて名印刷機、タイムレコーダー、タイムスタンプ、電動タイプライター、帳票分類機、文書細断機、電動断裁機、コレクター、紙とじ機、穴あけ機、番号機、チェックライター、硬貨計数機、紙幣計数機、ラベルタグ機械、ラミネーター 光源及び光源応用機械器具－マイクロフィルムリーダー、広告灯、複写機 電子応用機械器具－電子式卓上計算機、電子式金銭登録機、インターホン、その他の音響機器、テレビジョン受信機 交流用電気機械器具－防犯警報器 <p>※ 備考－屋外用に限る</p>
廃止する基準及び有効期間	なし

<審議中に問題となったこと>

- JIS C 6950-1 との関係 IEC 60950-22 では、IEC 60950-1 との関係が FOREWORD に記載されているが、JIS とする場合、それでは不十分であるとの指摘があり、審議の結果、1.2（要求事項）に関係を明記した。
- 対応国際規格との相違点について JIS C 6950-1:2016 を基に、この規格で修正すべき事項があるかを審議した。JIS C 6950-1 では、日本デビュレーションとしてクラス 0I 機器を設けているが、屋外に設置する機器においては、感電等の危険性が高くなるため、クラス 0I 機器は設けず、簡条 6（屋外場所での感電に対する保護）において注記を追加することとめた。
- 耐腐食性試験 8.3（耐腐食性）の試験方法として附属書 A（水飽和二酸化硫黄の雰囲気）に試験方法を規定しているが、この試験の実施には危険が伴い、知識を要するとの指摘があった。審議の結果、注記 2A にその旨を記載することとした。

電気用品安全法の技術基準の解釈 別表第十二に提案する規格の概要

＜主な国際規格との差異の概要とその理由＞

なし。

＜主な内容＞

この JIS は、JIS C 6950-1（情報技術機器－安全性－第 1 部：一般要求事項）の対象となる情報技術機器を屋外の環境に設置することを意図する場合に適用する規格であり、JIS C 6950-1 に加えて適用する。JIS C 6950-1 に規定する内容と異なる場合は、この JIS を優先して適用する。屋外に設置するための追加要求事項として、表示及び指示、屋外場所での感電に対する保護、屋外エンクロージャの構造要求、屋外エンクロージャ内の機器の保護、屋外エンクロージャの機械的強度、並びに制御弁式蓄電池又はベント形蓄電池を含む屋外機器について規定した。

技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 6950-22:2019 規格名：情報技術機器—安全性—第22部：屋外に設置する機器

[illegible]

技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 6950-22:2019 規格名：情報技術機器—安全性—第 22 部：屋外に設置する機器

技術基準			該当	規格		補足
条	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
				4.1	4.1 外気温 屋外機器及び屋外エンクロージャは、製造業者が指定する範囲内のいかなる外気温での使用にも適していなければならない。 製造業者が指定しない場合、外気温の範囲は、次による。 － 最低外気温：－33 ℃ － 最高外気温：＋40 ℃	
				4.2	4.2 主電源	
				4.2.1	4.2.1 一般要求事項 主電源で動作する屋外機器は、設置場所で予想される最高の主電源過渡電圧に適していなければならない。	
第 二 条 第 2 項	安全原則	電気用品は、当該電気用品の安全性を確保するために、形状が正しく設計され、組立てが良好で、かつ、動作が円滑であるものとする。	■該当 □非該当	JIS C 6950-1 箇条 1 1.6 箇条 2 2.3.2	<第 1 部> 箇条 1 総則 1.6 電源インタフェース 手持形機器の定格電圧は、250 V 以下でなければならない。 中性線は、大地及び機器の器体から絶縁しなければならない。 箇条 2 危険からの保護 2.3.2 その他の回路及びアクセス可能部分からの TNV 回路の分離 SELV 回路、TNV-1 回路及びアクセス可能な導電部は、単一故障時に規定の電圧を越えないように、TNV-2 回路及び	

技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 6950-22:2019 規格名：情報技術機器—安全性—第 22 部：屋外に設置する機器

技術基準			該当	規格		補足
条	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
				2.3.3	TNV-3 回路から分離しなければならない。	
				2.3.3	危険電圧からの分離 TNV 回路は、規定の構造の一つ以上の方法によって、危険電圧回路から分離しなければならない。	
				2.4	2.4 制限電流回路（全細分箇条を含む。） 通常動作状態の下、及び機器内の単一の故障において、規定する限度値を超えないように設計しなければならない。	
				2.5	2.5 有限電源 交流主電源によって動作する有限電源、又は負荷に供給しながら交流主電源によって充電を行う電池駆動の有限電源は、絶縁変圧器を組み込まなければならない。	
				2.6.2	2.6.2 機能接地 アクセス可能な機能接地回路は、二重絶縁又は強化絶縁等によって機器の危険電圧部分から分離しなければならない。	
				2.6.4	2.6.4 端子 保護接地及びボンディング端子は、導体の偶然による緩みに対処するように設計しなければならない。	
				2.6.5	2.6.5 保護接地の完全性 保護ボンディング用のセルフタッピング及びスペーススレッドタイプのねじは、その接続部分をサービス中に外す必要があつてはならない。保護ボンディング用のねじ	

技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 6950-22:2019 規格名：情報技術機器—安全性—第 22 部：屋外に設置する機器

技術基準			該当	規格		補足
条	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
				2. 6. 5. 8A	を通す場所の金属部分の厚さは、ねじ山のピッチの 2 倍以上でなければならない。	
				簡条 3	2. 6. 5. 8A クラス 0I 機器の接地 保護接地用口出線付きプラグは、プラグの定格電圧が 150 V 以上の機器に用いてはならない。	
				3. 2	簡条 3 配線、接続及び電源の供給 電氣的接続部は、適切な固定手段によってしっかりと固定されなければならない。	
				3. 3	3. 2 主電源への接続 (3. 2. 6 から 3. 2. 8 を除き、全細分簡条を含む。) 主電源への安全で信頼のおける接続を行うために、適切な	
				3. 4. 5	接続手段をもつ設計でなければならない。 3. 3 外部導体接続用の配線端子 (3. 3. 4 及び 3. 3. 5 を除き、全細分簡条を含む。)	
				3. 5	配線端子は、信頼のおける適切な電氣的及び機械的手段によって接続されなければならない。 3. 4. 5 可とう電源コードにあるスイッチ	
				簡条 4	断路用スイッチは、可とうコードに取り付けてはならない。	
				4. 3. 2	3. 5 機器の相互接続 (全細分簡条を含む。) 他の機器、アクセサリ又はネットワーク線と電氣的接続を行うことを意図した機器の相互接続の回路は、規定の	

技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 6950-22:2019 規格名：情報技術機器—安全性—第 22 部：屋外に設置する機器

技術基準			該当	規格		補足
条	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
				4.3.3	要求事項に対する適合性を維持しなければならない。 箇条 4 物理的要求事項 4.3.2 ハンドル及び手動操作 ハンドル、ノブ、グリップ、レバー及びこれらに類するものは、通常使用時に緩まないような方法で確実に固定しなければならない。	
				4.3.4	4.3.3 調整可能なコントロール 異なる交流主電源の電圧を選択するためのデバイスのようなコントロールデバイスを手で調整して、間違った設定又は不注意な調整となり、危険が生じるおそれがある場合、機器は、その調整に工具の使用を必要とする構造でなければならない。	
				4.3.5	4.3.4 部品の固定 ねじ、ナット、座金、ばね又はこれらに類する部品は通常使用時に発生する機械的ストレスに耐えるように確実に固定しなければならない。	
				箇条 6	4.3.5 プラグ及び接続器による接続 操作者又はサービス従事者が用いる可能性があるプラグ及び接続器は、差し間違いによって危険が生じるような方法で用いてはならない。	
				6.1	6.1 機器内に生じる危険からの、ネットワーク線サービス従事者及びネットワーク線に接続する他の機器の使用	
				6.1.1	6.1.1 ネットワーク線への接続	

技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 6950-22:2019 規格名：情報技術機器—安全性—第 22 部：屋外に設置する機器

技術基準			該当	規格		補足
条	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
				附属書 CC CC. 5	者の保護 6.1.1 危険電圧からの保護 ネットワーク線に直接接続する機器内部回路は、SELV 回路又は TNV 回路に関する要求事項に適合しなければならない。 附属書 CC 集積回路 (IC) 電流制限器の評価 CC. 5 デバイスは仕様どおりに電流を制限するか、又は開放しなければならない。	
第 三 条 第 1 項	安全機能を有する設計等	電気用品は、前条の原則を踏まえ、危険な状態の発生を防止するとともに、発生時における被害を軽減する安全機能を有するよう設計されるものとする。	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	JIS C 6950-1 箇条 1 1.5.9.2 箇条 2 2.1.1.1 2.7	<第 1 部> 箇条 1 総則 1.5.9.2 VDR の保護 最大の連続電圧を超える短時間過電圧等に対する保護のために、適切な遮断容量をもつ遮断手段を VDR と直列に接続しなければならない。 箇条 2 危険からの保護 2.1.1.1 操作者アクセスエリアにおいて、充電部分への接触に対して十分な保護をもつため、インタロック等を用いて電源を遮断しなければならない。 2.7 一次回路における過電流及び地絡に対する保護 (2.7.2 及び 2.7.6 を除き、全細分箇条を含む。) 過電流、短絡及び地絡に対し、一次回路に適切な保護デバイスを、機器の一部又は建造物の設備の一部を用いて備えなければならない。	

技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 6950-22:2019 規格名：情報技術機器—安全性—第 22 部：屋外に設置する機器

技術基準			該当	規格		補足
条	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
				2.8.1	2.8.1 操作者アクセスエリアに危険が通常存在する場合は、安全インタロックを備えなければならない。	
				2.8.2	2.8.2 安全インタロックは、テストフィンガが危険部分に触れることができるところまでカバー、扉などが開かないうちに危険を除去する設計でなければならない。	
				箇条 3	箇条 3 配線、接続及び電源の供給	
				3.4	3.4 主電源からの遮断（3.4.4、3.4.5、3.4.8、3.4.9 及び 3.4.11 を除き、全細分箇条を含む。） 機器には、主電源から遮断するために、適切な遮断デバイスを設けなければならない。	
				箇条 4	箇条 4 物理的要求事項	
				4.3.7	4.3.7 接地した機器の電熱素子 安全のために接地した機器の中に電熱素子をもつ機器に温度検知デバイスを備える場合は、電熱素子に電源を供給する全ての相導体に対して温度検知デバイスを配置しなければならない。	
				4.3.11	4.3.11 液体又は気体の容器 通常使用時に液体又は気体を収納している機器は、過度の圧力を生じる危険に対して適切な安全確保手段を組み込まなければならない。	
				4.6.3	4.6.3 防火用エンクロージャの扉又はカバー 防火用エンクロージャの一部に、操作者アクセスエリアの開閉を行う扉又はカバーは、インタロックを備えな	

技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 6950-22:2019 規格名：情報技術機器—安全性—第 22 部：屋外に設置する機器

技術基準			該当	規格		補足
条	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
				<p>簡条 5</p> <p>5.3</p> <p>附属書 M</p> <p>M.3.1</p> <p>JIS C 6950-22</p> <p>簡条 6</p> <p>6.3</p> <p>簡条 11</p> <p>11.1</p>	<p>なければならない。</p> <p>簡条 5 電気的要求事項及び異常状態の模擬</p> <p>5.3 異常動作及び故障状態（全細分簡条を含む。）</p> <p>機器は、機械的若しくは電氣的な過負荷、故障、異常動作又は不注意な使用によって、火災又は感電のリスクが生じないように適切な保護装置を設けなければならない。</p> <p>附属書 M 呼出シグナルに関する判断基準</p> <p>M.3.1 呼出シグナル（全細分簡条を含む。）</p> <p>呼出シグナルは、規定の値以上の電圧を発生してはならない。</p> <p><第 22 部></p> <p>簡条 6 屋外場所での感電に対する保護</p> <p>6.3 屋外場所でのコンセントに対する保護</p> <p>屋外場所にある定格 20 A 以下の一般用コンセントに接続する屋外機器の主電源には、定格感度電流が 30 mA 以下の RCD（漏電遮断器）を用いなければならない。</p> <p>簡条 11 制御弁式蓄電池又はベント形蓄電池を含む屋外機器</p> <p>11.1 鉛蓄電池、ニッケルカドミウム蓄電池及びニッケル水素蓄電池による爆発の危険性</p> <p>通常の使用又は過充電中にガスが発生する可能性がある、制御弁式蓄電池又はベント形蓄電池を収容する区画は、適切に換気しなければならない。</p>	

技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 6950-22:2019 規格名：情報技術機器—安全性—第 22 部：屋外に設置する機器

技術基準			該当	規格		補足
条	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
第 三 条 第 2 項	安全機能を有する設計等	電気用品は、前項の規定による措置のみによつてはその安全性の確保が困難であると認められるときは、当該電気用品の安全性を確保するために必要な情報及び使用上の注意について、当該電気用品又はこれに付属する取扱説明書等への表示又は記載がされるものとする。	■該当 □非該当	JIS C 6950-1 箇条 1 1. 7 箇条 2 2. 6 2. 6. 3. 5 4. 3. 13. 5. 1 附属書 DD DD. 2 附属書 JA	<第 1 部> 箇条 1 総則 1. 7 表示及び指示（1. 7. 11 及び 1. 7. 12 を除き、全細分箇条を含む。） 以下の表示及び指示をしなければならない。 －電源定格表示 －識別表示 －安全性に関する指示及び表示、等 箇条 2 危険からの保護 2. 6 接地及びボンディングの規定 2. 6. 3. 5 絶縁物の色 機器とともに提供される電源コードの保護接地導体の絶縁物は、緑と黄との組合せでなければならない。 箇条 4 物理的要求事項 4. 3. 13. 5. 1 レーザ（レーザダイオードを含む） 機器は、関連 JIS 規格に従って分類し、レーザに関する表示ラベルを貼らなければならない。 附属書 DD ラックマウント形機器の搭載手段に関する要求事項 DD. 2 機械的強度試験、可変 N 棚には、その棚に加えることができる最大荷重を表示しなければならない。 附属書 JA シュレツダに対する要求事項	

技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 6950-22:2019 規格名：情報技術機器—安全性—第 22 部：屋外に設置する機器

技術基準			該当	規格		補足
条	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
				JA.1	JA.1 表示及び取扱説明書 文書投入口の近傍の見やすい箇所に、規定の“消費者用警告図記号”の（一般注意）図記号及び規定の使用上の注意事項を表示しなければならない。	
				JA.3	JA.3 分離用スイッチ 位置スイッチには、規定に基づいてオン及びオフ位置を表示しなければならない。	
				JIS C 6950-22	<第 22 部>	
				箇条 4	箇条 4 屋外機器の要件	
				4.2.2	4.2.2 交流主電源の主電源過渡電圧 設置時に屋外機器の内部又は外部に追加の保護を施す場合はこの限りではない。この場合、設置指示書には追加の保護の必要性を記載しなければならない。	
				4.2.3	4.2.3 直流主電源の主電源過渡電圧 製造業者は、設置指示書に、直流主電源の主電源過渡電圧を記載しなければならない。	
				箇条 5	箇条 5 表示及び指示 屋外機器の設置指示書には、屋外場所の条件から保護するために必要な条件を詳細に記載しなければならない [JIS C 6950-1 の 1.7.2（安全性に関する指示及び表示）参照]。 屋外エンクロージャを JIS C 0920 に基づいて分類する場合、屋外エンクロージャの製造業者は、IP コードを宣	

技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 6950-22:2019 規格名：情報技術機器—安全性—第 22 部：屋外に設置する機器

技術基準			該当	規格		補足
条	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
				箇条 6 6.3	言しなければならない。ただし、屋外エンクロージャ上には、IP コードを表示する必要はない。この宣言は、屋外機器には適用しない。 箇条 6 屋外場所での感電に対する保護 6.3 屋外場所でのコンセントに対する保護 RCD が建造物の設備の一部である場合は、RCD を設置する指示書を屋外機器とともに提供しなければならない。	
第四条	供用期間中における安全機能の維持	電気用品は、当該電気用品に通常想定される供用期間中、安全機能が維持される構造であるものとする。	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	JIS C 6950-1 箇条 2 2.6.5.6 2.8 箇条 3 3.2.5.1	<第 1 部> 箇条 2 危険からの保護 2.6.5.6 耐腐食性 保護接地用端子及び保護ボンディング用端子並びに接続部に接触している導電部は、機器とともに提供される説明書に明示した動作、保管又は輸送時の環境条件において、電気化学反応による腐食が生じてはならない。 2.8 安全インタロック (2.8.4、2.8.5 及び 2.8.8 を含む。) 安全インタロックシステムは、機器の通常の寿命期間中に受ける機械的衝撃力及び振動に耐える耐久性を有し、たとえ故障した場合でも、極度の危険が生じない構造でなければならない。 箇条 3 配線、接続及び電源の供給 3.2.5.1 交流電源コード	

技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 6950-22:2019 規格名：情報技術機器—安全性—第 22 部：屋外に設置する機器

技術基準			該当	規格		補足
条	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
				<div>箇条 4</div> <div>4.5</div> <div>4.6.5</div> <div>JIS C 6950-22</div> <div>箇条 4</div> <div>4.1</div>	<p>可搬形機器のシールドを施したコードには、規定の可とう性試験に適合しなければならない。</p> <p>箇条 4 物理的要求事項</p> <p>4.5 温度に関する要求事項</p> <p>機器の期待寿命の間の通常使用状態において、コンポーネント、部分、絶縁材及びプラスチック材料が、電氣的及び機械的特性が劣化してくることがあるという事実を考慮しなければならない。</p> <p>4.6.5 構造目的の接着剤</p> <p>規定に適合させるために施したバリア又はスクリーンを、接着剤を用いてエンクロージャの内側、又はエンクロージャ内部のその他の部分に固定する場合、当該接着剤は、製品寿命を通じて十分な接着特性をもたなければならない。</p> <p><第 22 部></p> <p>箇条 4 屋外機器の要件</p> <p>4.1 外気温</p> <p>屋外機器及び屋外エンクロージャは、製造業者が指定する範囲内のいかなる外気温での使用にも適していなければならない。</p> <p>製造業者が指定しない場合、外気温の範囲は、次による。</p> <ul style="list-style-type: none"> — 最低外気温：－33℃ — 最高外気温：＋40℃ 	

技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 6950-22:2019 規格名：情報技術機器—安全性—第 22 部：屋外に設置する機器

技術基準			該当	規格		補足
条	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
				箇条 8	箇条 8 屋外エンクロージャの構造要求	
				8.1	8.1 一般要求事項 意図した使用条件を考慮し、適切な材料を用いることによって、又は露出した表面に施す保護コーティングによって、腐食に対する保護を備えなければならない。 機能的に屋外エンクロージャの一部となるダイヤル又はコネクタなどの部分は、屋外エンクロージャと同じ外部環境からの保護要求事項に適合しなければならない。 電流が安全を損なうと考えられる腐食を引き起こす可能性がある場合は、通常の動作中に電流を屋外エンクロージャに流してはならない。ただし、故障電流を流す目的で、屋外エンクロージャの導電部を保護接地に接続することを妨げるものではない。	
				8.2	8.2 紫外線 (UV) 放射に対する耐性 この規格に適合するために、必要な屋外エンクロージャの非金属部分は、紫外線放射による劣化に対して十分耐えられなければならない。	
				8.3	8.3 耐腐食性	
				8.3.1	8.3.1 一般要求事項 保護コーティングの有無にかかわらず、屋外エンクロージャの金属部分は、水性汚染物質の影響に耐えなければならない。	
				8.5	8.5 ガasket	

技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 6950-22:2019 規格名：情報技術機器—安全性—第 22 部：屋外に設置する機器

技術基準			該当	規格		補足
条	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
				8.5.1	8.5.1 一般要求事項 屋外エンクロージャに備える、エラストマ若しくは熱可塑性材料のガスケット、又はエラストマ材料を用いる合成物ガスケットであつて、水又はじんあいにさらされるものは、この規格の要求事項に適合しなければならない。	
				8.5.2	8.5.2 耐油性 油又は冷却液にさらされるエンクロージャに備わったガスケットは、耐油性がなければならない。	
				8.5.3	8.5.3 固定手段 ガスケットは、接着剤又は機械的手段で固定しなければならない。ジョイントを開くときに、ガスケット及びその固定手段の損傷があつてはならない。	
				箇条 9	箇条 9 屋外エンクロージャ内の機器の保護	
				9.1	9.1 湿気からの保護 屋外エンクロージャは、その中の機器に湿気の影響を与えないように適切な保護を備えなければならない。	
				9.2	9.2 植物及び害虫からの保護 屋外機器は、植物及び害虫の侵入に対する考慮が必要な場合、十分な保護を備えていなければならない。	
				9.3	9.3 過度のじんあい（塵埃）からの保護	
				9.3.1	9.3.1 一般要求事項 屋外機器は、汚損度 3 の要求事項に従って開発されない限り、IP5X 若しくは IP6X の適切な定格をもつ屋外エン	

技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 6950-22:2019 規格名：情報技術機器—安全性—第 22 部：屋外に設置する機器

技術基準			該当	規格		補足
条	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
				<div> <div>簡条 10</div> <div>10. 1</div> </div>	<p>クロージャ、又はこれらに相当する屋外エンクロージャを用いて、じんあいの侵入に対して適切な保護を備えなければならない。</p> <p>簡条 10 屋外エンクロージャの機械的強度</p> <p>10. 1 一般要求事項</p> <p>屋外エンクロージャ及び屋外機器は、適切な機械的強度を備え、製造業者が意図する周囲温度範囲にわたって、機器内の通電部品へのアクセス及びその他の危険性からの保護を備えなければならない。</p> <div> <div>簡条 11</div> <div>11. 1</div> </div>	
					<p>11. 1 鉛蓄電池、ニッケルカドミウム蓄電池及びニッケル水素蓄電池による爆発の危険性</p> <p>換気システムは、過熱又は熱暴走による電池ケースのゆがみを含む、潜在的な故障が生じた場合でも、爆発性ガスの換気を損なわないように構成しなければならない。</p> <p>爆発性ガスを電池ケースから外気に導くために換気管を用いる場合、換気管は、ガスの蓄積をキャビネットから排除する唯一の手段であってはならない。電池を収納する屋外エンクロージャを適切に換気するために、独立した自然換気手段を備えなければならない。</p> <p>機械式換気又は強制換気を用いる場合は、単一故障状態でも十分な換気を継続しなければならない。</p>	

技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 6950-22:2019 規格名：情報技術機器－安全性－第 22 部：屋外に設置する機器

技術基準			該当	規格		補足
条	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
					機械式又は電気機械式のダンパ付きのエンクロージャは、ダンパが閉位置にあるときでも、引き続き十分な換気を提供するものでなければならない。	
第五条	使用者及び使用場所を考慮した安全設計	電気用品は、想定される使用者及び使用される場所を考慮し、人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を与えるおそれがないように設計され、及び必要に応じて適切な表示をされているものとする。	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	JIS C 6950-1 箇条 2 2.7.6 箇条 4 4.1 4.4 4.4.5.3 附属書 JA JA.1	<第 1 部> 箇条 2 危険からの保護 2.7.6 サービス従事者に起こる可能性がある危険を警告するために適切な表示を機器に備えるか、又はサービス指示書の中にその内容を記載しなければならない。 箇条 4 物理的要求事項 4.1 安定性 サービス従事者が操作している間、安定化手段が必要になる場合は、安定化手段は自動的に作動するか、又は安定化手段の設置をサービス従事者に指示する表示を備えなければならない。 4.4 危険な可動部に対する保護 4.4.5.3 サービス従事者が回転中のファンブレードとの接触を避けるために、ファンブレードの位置が識別できるように適切な表示及び必要なあらゆる指示を行わなければならない。 附属書 JA シュレッダに対する要求事項 JA.1 表示及び取扱説明書 文書投入口の近傍の見やすい箇所に、「子供が使用することによって、傷害などの危害が発生するおそれがある」	

技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 6950-22:2019 規格名：情報技術機器—安全性—第 22 部：屋外に設置する機器

技術基準			該当	規格		補足
条	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
				JIS C 6950-22 箇条 8 8.1	<p>旨を表示しなければならない。</p> <p><第 22 部></p> <p>箇条 8 屋外エンクロージャの構造要求</p> <p>8.1 一般要求事項</p> <p>意図した使用条件を考慮し、適切な材料を用いることによって、又は露出した表面に施す保護コーティングによって、腐食に対する保護を備えなければならない。</p> <p>機能的に屋外エンクロージャの一部となるダイヤル又はコネクタなどの部分は、屋外エンクロージャと同じ外部環境からの保護要求事項に適合しなければならない。</p>	
				8.2	<p>8.2 紫外線（UV）放射に対する耐性</p> <p>この規格に適合するために、必要な屋外エンクロージャの非金属部分は、紫外線放射による劣化に対して十分耐えられなければならない。</p>	
				8.3	8.3 耐腐食性	
				8.3.1	<p>8.3.1 一般要求事項</p> <p>保護コーティングの有無にかかわらず、屋外エンクロージャの金属部分は、水性汚染物質の影響に耐えなければならない。</p>	
				箇条 9 9.1	<p>箇条 9 屋外エンクロージャ内の機器の保護</p> <p>9.1 湿気からの保護</p> <p>屋外エンクロージャは、その中の機器に湿気の影響を与えないように適切な保護を備えなければならない。</p>	

技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 6950-22:2019 規格名：情報技術機器－安全性－第 22 部：屋外に設置する機器

技術基準			該当	規格		補足
条	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
				9.2	9.2 植物及び害虫からの保護 屋外機器は、植物及び害虫の侵入に対する考慮が必要な場合、十分な保護を備えていなければならない。	
				9.3	9.3 過度のじんあい（塵埃）からの保護	
				9.3.1	9.3.1 一般要求事項 屋外機器は、汚損度 3 の要求事項に従って開発されない限り、IP5X 若しくは IP6X の適切な定格をもつ屋外エンクロージャ、又はこれらに相当する屋外エンクロージャを用いて、じんあいの侵入に対して適切な保護を備えなければならない。	
				箇条 10	箇条 10 屋外エンクロージャの機械的強度	
				10.1	10.1 一般要求事項 屋外エンクロージャ及び屋外機器は、適切な機械的強度を備え、製造業者が意図する周囲温度範囲にわたって、機器内の通電部品へのアクセス及びその他の危険性からの保護を備えなければならない。	
				箇条 11	箇条 11 制御弁式蓄電池又はベント形蓄電池を含む屋外機器	
				11.1	11.1 鉛蓄電池、ニッケルカドミウム蓄電池及びニッケル水素蓄電池による爆発の危険性 通常の使用又は過充電中にガスが発生する可能性がある、制御弁式蓄電池又はベント形蓄電池を収容する区画は、適切に換気しなければならない。	

技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 6950-22:2019 規格名：情報技術機器—安全性—第 22 部：屋外に設置する機器

技術基準			該当	規格		補足
条	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
第六条	耐熱性等を有する部品及び材料の使用	電気用品には、当該電気用品に通常想定される使用環境に応じた適切な耐熱性、絶縁性等を有する部品及び材料が使用されるものとする。	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	JIS C 6950-1 箇条 1 1.5 箇条 2 2.8.7 2.9.1 2.10 2.10.5	<第 1 部> 箇条 1 総則 1.5 コンポーネント（全細分箇条を含む。） 次の部品等は、規定の要求事項に適合した適切な耐熱性、絶縁性等を有するものでなければならない。 ー温度調節器 ー変圧器 ー相互接続ケーブル ー絶縁を橋絡するコンデンサ ー絶縁を橋絡する抵抗器 ー IT 電力系統に関係する機器内コンポーネント ーサージ抑制器 箇条 2 危険からの保護 2.8.7 スイッチ、リレー及び関連回路（全細分箇条を含む。） 安全インタロックシステム内のスイッチは、規定の要求事項に適合しなければならない。 2.9.1 絶縁材料の特性 絶縁材料の選択及び使用に当たっては、電氣的、熱的及び機械的強度、動作電圧の周波数並びに動作環境（温度、気圧、湿度及び汚損度）を考慮しなければならない。 2.10 空間距離、沿面距離及び絶縁物を通しての距離 2.10.5 固体絶縁（2.10.5.2 及び 2.10.5.11 を除き、全	

技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 6950-22:2019 規格名：情報技術機器—安全性—第 22 部：屋外に設置する機器

技術基準			該当	規格		補足
条	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
				2. 10. 9	<p>細分箇条を含む。)</p> <p>固体絶縁、絶縁コンパウンドで完全に充填している半導体デバイス、薄いシート及び巻線コンポーネント内の線等の絶縁は、規定の耐電圧試験に耐えなければならない。</p> <p>2. 10. 9 熱サイクル</p> <p>規定の熱サイクル試験で、変圧器、磁器カプラ等の絶縁は、破壊されてはならない。</p>	
				2. 10. 10	<p>2. 10. 10 汚損度 1 環境及び絶縁コンパウンドについての試験</p> <p>規定の熱サイクル処理、及び湿度処理後、絶縁材料に目に見える空隙、割れ目及び亀裂があってはならない。</p>	
				2. 10. 11	<p>2. 10. 11 半導体デバイス及び接合部についての試験</p> <p>熱サイクル処理後、半導体デバイス及び接合部の絶縁材料に目に見える空隙、割れ目及び亀裂があってはならない。</p>	
				箇条 3	<p>箇条 3 配線、接続及び電源の供給</p>	
				3. 1. 4	<p>3. 1. 4 導体の絶縁</p> <p>内部配線の各導体の絶縁被覆は、規定する耐電圧試験に耐えなければならない。</p>	
				箇条 4	<p>箇条 4 物理的要求事項</p>	
				4. 3. 13. 3	<p>4. 3. 13. 3 材料への紫外線 (UV) の影響</p> <p>機器内でランプから放射される紫外線にさらされる非金属部品は、安全性に影響を受けない範囲で劣化に十分に</p>	

技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 6950-22:2019 規格名：情報技術機器—安全性—第 22 部：屋外に設置する機器

技術基準			該当	規格		補足
条	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
				4.5.2	<p>耐えなければならない。</p> <p>4.5.2 温度試験</p> <p>コンポーネントの中及び機器の構造の中で用いる材料は、通常負荷の使用条件下で、温度がこの規格でいう安全な値を超えないように、選定しなければならない。</p>	
				4.5.5	<p>4.5.5 異常発生熱に対する耐性</p> <p>熱可塑性樹脂部品に危険電圧部分を直接取り付けの場合、その樹脂部品は異常発生熱に耐えなければならない。</p>	
				附属書 K	附属書 K 温度調節器	
				K.1	<p>K.1 開閉容量</p> <p>サーモスタット及び温度制限器は、十分な開閉容量をもたなければならない。</p>	
				K.5	<p>K.5 温度過昇防止器の信頼性</p> <p>温度過昇防止器は、規定の動作試験後、確実に作動しなければならない。</p>	
				K.6	<p>K.6 動作の安定性</p> <p>サーモスタット、温度制限器及び温度過昇防止器は、通常使用時に生じる熱、振動などによって、その設定位置が顕著に変わらないような構造でなければならない。</p>	
				附属書 U	附属書 U 介在絶縁物なしで用いる絶縁巻線	
				U.2.1	<p>U.2.1 一般要求事項</p> <p>絶縁巻線は、規定の耐電圧及び耐熱特性に適合しなければならない。</p>	

技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 6950-22:2019 規格名：情報技術機器—安全性—第 22 部：屋外に設置する機器

技術基準			該当	規格		補足
条	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
				JIS C 6950-22 箇条 4 4.1 箇条 8 8.1 8.2 8.3 8.3.1	<p><第 22 部></p> <p>4 屋外機器の要件</p> <p>4.1 外気温</p> <p>屋外機器及び屋外エンクロージャは、製造業者が指定する範囲内のいかなる外気温での使用にも適していなければならない。</p> <p>箇条 8 屋外エンクロージャの構造要求</p> <p>8.1 一般要求事項</p> <p>意図した使用条件を考慮し、適切な材料を用いることによって、又は露出した表面に施す保護コーティングによって、腐食に対する保護を備えなければならない。</p> <p>機能的に屋外エンクロージャの一部となるダイヤル又はコネクタなどの部分は、屋外エンクロージャと同じ外部環境からの保護要求事項に適合しなければならない。</p> <p>8.2 紫外線（UV）放射に対する耐性</p> <p>この規格に適合するために、必要な屋外エンクロージャの非金属部分は、紫外線放射による劣化に対して十分耐えなければならない。</p> <p>8.3 耐腐食性</p> <p>8.3.1 一般要求事項</p> <p>保護コーティングの有無にかかわらず、屋外エンクロージャの金属部分は、水性汚染物質の影響に耐えなければならない。</p>	

技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 6950-22:2019 規格名：情報技術機器—安全性—第 22 部：屋外に設置する機器

技術基準			該当	規格		補足
条	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
				8.5 8.5.1 8.5.2	8.5 ガスケット 8.5.1 一般要求事項 屋外エンクロージャに備える、エラストマ若しくは熱可塑性材料のガスケット、又はエラストマ材料を用いる合成物ガスケットであつて、水又はじんあいにさらされるものは、この規格の要求事項に適合しなければならない。 8.5.2 耐油性 油又は冷却液にさらされるエンクロージャに備わったガスケットは、耐油性がなければならない。	
第七 条 第 1 項	感電に対する保護	電気用品には、使用場所の状況及び電圧に応じ、感電のおそれがないように、次に掲げる措置が講じられるものとする。 一 危険な充電部への人の接触を防ぐとともに、必要に応じて、接近に対しても適切に保護すること。	■該当 □非該当	JIS C 6950-1 箇条 2 2.1 箇条 3 3.4 3.4.4	<第 1 部> 箇条 2 危険からの保護 2.1 感電及びエネルギーによる危険に対する保護（全細分箇条を含む。） 使用者及びサービス従事者に対して、危険な充電部及び危険なエネルギー源への接触及び接近が出来てはならない。 箇条 3 配線、接続及び電源の供給 3.4 主電源からの遮断 3.4.4 充電部分が残存する部分 機器の内部に設けた遮断デバイスで、そのスイッチを切っても通電状態のままになっている電源側の部分は、サービス従事者が偶然に接触する可能性を少なくするように防護しなければならない。	

技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 6950-22:2019 規格名：情報技術機器—安全性—第 22 部：屋外に設置する機器

技術基準			該当	規格		補足
条	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
				箇条 4	箇条 4 物理的要求事項	
				4.2	4.2 機械的強度	
				4.2.1	4.2.1 一般要求事項 規定の機械的試験後、接地又は非接地導電エンクロージャは、危険エネルギーレベルが存在する部分を短絡してはならず、かつ、危険電圧の裸の部分に触れてはならない。	
				4.2.7	4.2.7 応力緩和試験 熱可塑性樹脂材料で成型又は成形したエンクロージャは、成型又は成形時の内部応力の解放によってその材料に収縮又はひずみが生じても、危険な部分が露出してはならない。	
				4.6	4.6 エンクロージャの開口	
				4.6.1	4.6.1 上面及び側面開口 可搬形機器のエンクロージャを除き、エンクロージャの上面及び側面の開口は、異物が開口を通して侵入し、裸の導電部分に接触し危険を生じないような位置にするか又は構造にしなければならない。	
				箇条 6	箇条 6 ネットワーク線への接続	
				6.2	6.2 ネットワーク線からの過電圧に対する機器使用者の保護	
				6.2.1	6.2.1 分離要求事項 機器は、TNV-1 回路又は TNV-3 回路と機器の可触部分と	

技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 6950-22:2019 規格名：情報技術機器－安全性－第 22 部：屋外に設置する機器

技術基準			該当	規格		補足
条	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
				JIS C 6950-22 箇条 10 10.1	<p>の間を適切に、かつ、電氣的に分離しなければならない。</p> <p><第 22 部></p> <p>箇条 10 屋外エンクロージャの機械的強度</p> <p>10.1 一般要求事項</p> <p>屋外エンクロージャ及び屋外機器は、適切な機械的強度を備え、製造業者が意図する周囲温度範囲にわたって、機器内の通電部品へのアクセス及びその他の危険性からの保護を備えなければならない。</p>	
第七 条 第 2 項	感電に対する保護	二 接触電流は、人体に影響を及ぼさないように抑制されていること。	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	JIS C 6950-1 箇条 2 2.2 2.3 2.3.5 2.6 2.6.1	<p><第 1 部></p> <p>箇条 2 危険からの保護</p> <p>2.2 SELV 回路（全細分箇条を含む。）</p> <p>SELV 回路は、通常動作状態の下及び単一故障が生じた後のいずれの場合であっても、接触しても安全な電圧でなければならない。</p> <p>2.3 TNV 回路</p> <p>2.3.5 外部要因によって発生する動作電圧の試験</p> <p>規定の試験電圧を受けた後、SELV 回路、TNV-1 回路又はアクセス可能な導電部は、接触しても安全な電圧でなければならない。</p> <p>2.6 接地及びボンディングの規定</p> <p>2.6.1 保護接地</p> <p>機器のアクセス可能な導電部、機器の主保護接地端子に確実に接続しなければならない。</p>	

技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 6950-22:2019 規格名：情報技術機器—安全性—第 22 部：屋外に設置する機器

技術基準			該当	規格		補足
条	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
				2.6.4	2.6.4 端子	
				2.6.4.2	2.6.4.2 保護接地及びボンディング端子 保護接地をもつことを要求する機器は、主保護接地端子をもたなければならない。	
				2.6.5	2.6.5 保護接地の完全性（2.6.5.6 を除き、全細分箇条を含む。） 保護接地は、適切に保護接地接続を確保しなければならない。	
				箇条 5	箇条 5 電気的要求事項及び異常状態の模擬	
				5.1.1	5.1.1 一般要求事項 機器は、タッチカレント又は保護導体電流のいずれから も感電の危険が生じるおそれのない設計及び構造でなければならない。	
				5.1.8	5.1.8 ネットワーク線及びケーブル分配システムへのタッチカレント並びにネットワーク線からのタッチカレント（全細分箇条を含む。） 交流主電源より電力を受ける機器からネットワーク線又はケーブル分配システムへのタッチカレントは、規定の値を超えてはならない。	
				JIS C 6950-22	<第 22 部>	
				箇条 4	箇条 4 屋外機器の要件	
				4.2	4.2 主電源	
				4.2.1	4.2.1 一般要求事項	

技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 6950-22:2019 規格名：情報技術機器—安全性—第 22 部：屋外に設置する機器

技術基準			該当	規格		補足
条	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
				4.2.2	主電源で動作する屋外機器は、設置場所で予想される最高の主電源過渡電圧に適していなければならない。 4.2.2 交流主電源の主電源過渡電圧 建造物の設備の一部であるか、又は過電圧カテゴリ II の数値を超える過渡過電圧にさらされるおそれがある屋外機器は、過電圧カテゴリ III 又は過電圧カテゴリ IV の機器として設計しなければならない。	
				4.2.3	4.2.3 直流主電源の主電源過渡電圧 直流主電源の過渡電圧は、直流主電源の供給源及び設置状況によって異なる。直流主電源過渡電圧を決定するときは、直流主電源の供給源及び設置状況を考慮しなければならない。これらが分からない場合、直流主電源の主電源過渡電圧は 1.5 kV としなければならない。	
				4.3	4.3 大地電位の上昇 屋外機器においては、故障発生時に保護が働くまでの間、危険電圧にさらされ、屋内機器よりも長い時間アクセス可能になる場合があり、特別な接地条件が必要になる。これらの接地条件は、各国の設備基準に規定されている。	
				箇条 6	箇条 6 屋外場所での感電に対する保護	
				6.1	6.1 屋外場所での操作者アクセス可能部分の電圧の限度値 屋外場所において、操作者がアクセス可能な屋外機器の導電部は、JIS C 6950-1 の 2.2.2（通常動作状態での電	

技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 6950-22:2019 規格名：情報技術機器—安全性—第 22 部：屋外に設置する機器

技術基準			該当	規格		補足
条	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
				6.3	<p>圧の限度値) 及び 2.2.3 (故障状態での電圧の限度値) の SELV 回路の要求事項に適合しなければならない。ただし、電圧の限度値は次の値を超えてはならない。</p> <ul style="list-style-type: none"> — 通常動作状態の下では、交流 15 V、ピーク 21.2 V、又は直流 30 V (JIS C 6950-1 の 2.2.2 参照) — 単一故障状態の下では、交流 15 V、ピーク 21.2 V、又は直流 30 V。ただし、0.2 秒以下の場合、電圧は交流 30 V、ピーク 42.4 V 又は直流 60 V (JIS C 6950-1 の 2.2.3 参照)。 <p>JIS C 6950-1 の 2.2.3 に規定する 2.3.2.1 [(その他の回路及びアクセス可能部分からの TNV 回路の分離の) 一般要求事項] の b) での除外に関する事項は、操作者がアクセス可能な導電部には適用しない。</p> <p>6.3 屋外場所でのコンセントに対する保護</p> <p>屋外場所にある定格 20 A 以下の一般用コンセントに接続する屋外機器の主電源には、定格感度電流が 30 mA 以下の RCD (漏電遮断器) を用いなければならない。</p>	
第八条	絶縁性能の保持	電気用品は、通常の使用状態において受けるおそれがある内外からの作用を考慮し、かつ、使用場所の状況に応じ、絶縁性能が保たれるものとする。	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	JIS C 6950-1 箇条 2 2.9.4	<p><第 1 部></p> <p>箇条 2 危険からの保護</p> <p>2.9.4 危険電圧からの分離</p> <p>アクセス可能な導電部分を危険電圧部分から分離する場合、絶縁は、その部分間の動作電圧又は該当する要求耐</p>	

技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 6950-22:2019 規格名：情報技術機器—安全性—第 22 部：屋外に設置する機器

技術基準			該当	規格		補足
条	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
				2. 10. 1. 4	電圧に適した定格でなければならない。 2. 10. 1. 4 接続されていない導電部の介在 コネクタの未使用接点などのような接続されていない導電部の介在によって、空間距離及び沿面距離を分割した場合、分割した各距離を合計した値は、規定する最小値を満足しなければならない。	
				2. 10. 3	2. 10. 3 空間距離（全細分箇条を含む。） 空間距離は、機器に流入する過渡電圧を含む過電圧、及び機器内で発生するピーク電圧に対応した寸法にしなければならない。	
				2. 10. 4	2. 10. 4 沿面距離（全細分箇条を含む。） 沿面距離は、実効値動作電圧及び汚損度に応じて、フラッシュオーバー又は絶縁破壊を生じないような寸法にしなければならない。	
				2. 10. 5	2. 10. 5 固体絶縁（全細分箇条を含む。） 固体絶縁は、機器に侵入する過渡電圧を含む過電圧及び機器内で発生する可能性があるピーク電圧に対応した寸法にしなければならない。	
				2. 10. 6	2. 10. 6 プリント配線板の構造（全細分箇条を含む。） プリント配線板の外部表面上の導体間の絶縁は、規定の空間距離及び沿面距離の要求事項に適合しなければならない。	
				2. 10. 7	2. 10. 7 コンポーネントの外部接続部	

技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 6950-22:2019 規格名：情報技術機器—安全性—第 22 部：屋外に設置する機器

技術基準			該当	規格		補足
条	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
				2. 10. 8	コンポーネントの外部接続部は、規定の分離距離の要求事項を満足しなければならない。 2. 10. 8 コーティングを施したプリント配線板及びコーティングを施したコンポーネントの試験（2. 10. 8. 1 及び 2. 10. 8. 2 を除き、全細分箇条を含む。） コーティングを施したプリント配線板及びコーティングを施したコンポーネントは、規定の耐電圧に耐えなければならない。	
				箇条 3 3. 1. 1	箇条 3 配線、接続及び電源の供給 3. 1. 1 電流定格及び過電流保護 内部配線及び相互接続ケーブルは、通常負荷で機器を運転したときに流れる電流によって、導体の絶縁物がその最大許容温度を超えないように十分な大きさの断面積をもたなければならない。	
				箇条 4 4. 3. 9	箇条 4 物理的要求事項 4. 3. 9 油及びグリース 内部配線、巻線、整流子、スリップリング及びこれらに類するもの並びに絶縁物全般が、油、グリース又はこれらに類する物質にさらされている場合、絶縁は劣化しないような適切な特性をもたなければならない。	
				4. 3. 10	4. 3. 10 じんあい、粉末、液体及び気体 粉末、液体若しくは気体を用いる機器は、液体がこぼれる可能性がある部分の全ての絶縁に対して規定する耐電	

技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 6950-22:2019 規格名：情報技術機器—安全性—第 22 部：屋外に設置する機器

技術基準			該当	規格		補足
条	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
				4.5.3	<p>圧試験に耐えなければならない。</p> <p>4.5.3 材料の温度限度</p> <p>材料及びコンポーネントの温度は、表 4B に規定する値を超えてはならない。</p>	
				箇条 5	<p>箇条 5 電気的要求事項及び異常状態の模擬</p>	
				5.2	<p>5.2 耐電圧（全細分箇条を含む。）</p> <p>機器に用いる固体絶縁物は、十分な耐電圧をもたなければならない。</p>	
				5.3.4	<p>5.3.4 機能絶縁</p> <p>機能絶縁に対する、沿面距離及び空間距離は、規定の要求事項を満足しなければならない。</p>	
				5.3.7	<p>5.3.7 故障状態の模擬</p> <p>単一故障状態のコンポーネントに電源を供給する変圧器の温度は、規定する値を超えてはならない。</p>	
				5.3.9	<p>5.3.9 異常動作及び故障状態での適否の基準</p>	
				5.3.9.1	<p>5.3.9.1 試験中、熱可塑性以外の絶縁材料の温度は、規定の値を超えてはならない。</p>	
				箇条 6	<p>箇条 6 ネットワーク線への接続</p>	
				6.1	<p>6.1 機器内に生じる危険からの、ネットワーク線サービス従事者及びネットワーク線に接続する他の機器の使用者の保護</p>	
				6.1.2	<p>6.1.2 ネットワーク線の接地からの分離</p>	
				6.1.2.1	<p>6.1.2.1 ネットワーク線との接続を意図する機器内部回</p>	

技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 6950-22:2019 規格名：情報技術機器—安全性—第 22 部：屋外に設置する機器

技術基準			該当	規格		補足
条	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
				箇条 7 7.4 附属書 B 附属書 C JIS C 6950-22 箇条 4 4.2 4.2.1	<p>路と、使用方法によっては供試機器内で又は他の機器を介して接地される、部分又は回路部との間は、絶縁しなければならない。</p> <p>箇条 7 ケーブル分配システムとの接続</p> <p>7.4 一次回路とケーブル分配システムとの絶縁</p> <p>一次回路とケーブル分配システムに接続する端子又はリード線との絶縁は、規定の電圧サージ試験又はインパルス試験に耐えなければならない。</p> <p>附属書 B 異常状態でのモータに対する試験（全細分箇条を含む。）</p> <p>モータ巻線は、異常試験において、耐熱性に対する規定の温度を超えてはならない。</p> <p>附属書 C 変圧器（全細分箇条を含む。）</p> <p>変圧器は、過負荷試験において、耐熱性に対する規定の温度を超えてはならない。そして、絶縁は規定の空間距離及び沿面距離の値が要求最小値未満になるような変位があつてはならない。</p> <p><第 22 部></p> <p>箇条 4 屋外機器の要件</p> <p>4.2 主電源</p> <p>4.2.1 一般要求事項</p> <p>主電源で動作する屋外機器は、設置場所で予想される最高の主電源過渡電圧に適していなければならない。</p>	

技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 6950-22:2019 規格名：情報技術機器—安全性—第 22 部：屋外に設置する機器

技術基準			該当	規格		補足
条	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
				4.2.2	4.2.2 交流主電源の主電源過渡電圧 建造物の設備の一部であるか、又は過電圧カテゴリ II の数値を超える過渡過電圧にさらされるおそれがある屋外機器は、過電圧カテゴリ III 又は過電圧カテゴリ IV の機器として設計しなければならない。	
				4.2.3	4.2.3 直流主電源の主電源過渡電圧 直流主電源の過渡電圧は、直流主電源の供給源及び設置状況によって異なる。直流主電源過渡電圧を決定するときは、直流主電源の供給源及び設置状況を考慮しなければならない。これらが分からない場合、直流主電源の主電源過渡電圧は 1.5 kV としなければならない。	
				4.3	4.3 大地電位の上昇 屋外機器においては、故障発生時に保護が働くまでの間、危険電圧にさらされ、屋内機器よりも長い時間アクセス可能になる場合があり、特別な接地条件が必要になる。これらの接地条件は、各国の設備基準に規定されている。	
				箇条 6	箇条 6 屋外場所での感電に対する保護	
				6.3	6.3 屋外場所でのコンセントに対する保護 屋外場所にある定格 20 A 以下の一般用コンセントに接続する屋外機器の主電源には、定格感度電流が 30 mA 以下の RCD（漏電遮断器）を用いなければならない。	
第九条	火災の危険源からの保護	電気用品には、発火によって人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を与えるおそれがある	■該当 □非該当	JIS C 6950-1 箇条 3	<第 1 部> 箇条 3 配線、接続及び電源の供給	

技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 6950-22:2019 規格名：情報技術機器—安全性—第 22 部：屋外に設置する機器

技術基準			該当	規格		補足
条	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
		ないように、発火する温度に達しない構造の採用、難燃性の部品及び材料の使用その他の措置が講じられるものとする。		3. 5. 1	3. 5. 1 他の機器又はアクセサリへ接続するデータポートの SELV 回路は、規定する接続される側の機器の火災のリスクを制限しなければならない。	
				3. 5. 4	3. 5. 4 追加機器用のデータポート 追加機器又はアクセサリの火災のリスクを制限するために、追加機器又はアクセサリを接続するデータポートの SELV 回路は、有限電源から供給しなければならない。	
				箇条 4	箇条 4 物理的要求事項	
				4. 3. 7	4. 3. 7 接地した機器の電熱素子 安全のために接地した機器の中に電熱素子をもつ場合は、地絡故障状態の下でも過熱による火災の危険がないように電熱素子を保護しなければならない。	
				4. 3. 8	4. 3. 8 電池 電池を内蔵する機器は、通常動作状態の下及び機器の中における単一故障が生じた後において、火災のリスクを低減するように設計しなければならない。	
				4. 3. 12	4. 3. 12 可燃性液体 可燃性液体を機器で用いる場合、液体取扱いシステムは、火災又は爆発のリスクが減少するように、適切に格納するか、又は適切な構造でなければならない。	
				4. 5. 3	4. 5. 3 材料の温度限度 可燃性液体の接する材料及びコンポーネントの温度は、規定する値を超えてはならない。	

技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 6950-22:2019 規格名：情報技術機器—安全性—第 22 部：屋外に設置する機器

技術基準			該当	規格		補足
条	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
				4. 6. 2	4. 6. 2 防火用エンクロージャの底面又は底面に位置する個別のバリア、及び底面にある開口は、燃焼物が防火用エンクロージャの外側に落ちないようにしなければならない。	
				4. 6. 4	4. 6. 4 可搬形機器の開口 ペーパーリップ又はステーブラの針などの小さな金属性物質が移動中に可搬形機器内部で動き回ることによる発火のリスクは、このような金属性物質が機器内部に入り、火災の危険になるような裸の導電部を橋絡する可能性を最小限にする方法によって減じなければならない。	
				4. 6. 4. 2	4. 6. 4. 2 大きな開口部の評価 故障試験の間、非金属材料が発火したり、溶融金属の放出があったりしてはならない。	
				4. 6. 4. 3	4. 6. 4. 3 メタライズした部分の使用 15 VA を超える電力が取り出せる回路の故障試験を行ったとき、メタライズしたバリア又はエンクロージャが発火してはならない。	
				4. 7. 1	4. 7. 1 着火及び炎の拡散のリスクの減少 機器又は機器の一部に対し、材料、電線、巻線コンポーネント及び電子コンポーネントに影響を及ぼすおそれがある着火及び炎の拡散が生じないように、保護しなければならない。	
				4. 7. 2	4. 7. 2 防火用エンクロージャの条件	

技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 6950-22:2019 規格名：情報技術機器—安全性—第 22 部：屋外に設置する機器

技術基準			該当	規格		補足				
条	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要					
				4.7.3	故障状態の下で、ある部分の温度が発火するほどになる場合、防火用エンクロージャを設けなければならない。 4.7.3 材料（全細分箇条を含む。） 防火用エンクロージャ、防火用エンクロージャの内外のコンポーネント、その他の部分、空気フィルタ組立品及び高電圧コンポーネントの材料は、適切な難燃性でなければならない。					
				箇条 5	箇条 5 電気的要求事項及び異常状態の模擬					
				5.3.1	5.3.1 過負荷及び異常動作に対する保護 機器は、機械的若しくは電氣的な過負荷、故障、異常動作又は不注意な使用によって、火災のリスクが生じないように設計しなければならない。					
				5.3.9.1	5.3.9.1 異常試験において、発火した場合でも、機器から外に延焼してはならない。					
				附属書 B	附属書 B 異常状態でのモータに対する試験（全細分箇条を含む。） モータ巻線の異常試験において、発火してはならない。					
				JIS C 6950-22	<第 22 部>					
				箇条 8	箇条 8 屋外エンクロージャの構造要求					
				8.2	8.2 紫外線（UV）放射に対する耐性 表 1－紫外線ばく露後の最小特性保持限度値					
					<table><tr><td>試験対象 となる部</td><td>特性</td><td>試験方法 の規格、又</td><td>試験後の 最小保持</td></tr></table>	試験対象 となる部	特性	試験方法 の規格、又	試験後の 最小保持	
試験対象 となる部	特性	試験方法 の規格、又	試験後の 最小保持							

技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 6950-22:2019 規格名：情報技術機器—安全性—第 22 部：屋外に設置する機器

技術基準			該当	規格				補足	
条	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要				
					品		は定義	率（最小残留率）	
					全ての部分	難燃性区分	JIS C 6950-1 の、1.2.12（燃焼性）及び附属書 A（耐熱性試験及び耐火性試験）を参照	d)	
				8.4	注 d) 燃焼性区分は、JIS C 6950-1 の箇条 4（物理的要求事項）に規定する区分を下回らない限り、変化してもよい。				
					8.4 防火用エンクロージャの底面				
					屋外機器の防火用エンクロージャの底面は、JIS C 6950-1 の 4.6.2（防火用エンクロージャの底面）に適合しなければならない。ただし、機器が不燃性の表面（コンクリートや金属など）に、直接かつ恒久的に設置することを設置指示書に記載している場合は、屋外機器の底面に防火用エンクロージャの要求はない。				
				箇条 11	箇条 11 制御弁式蓄電池又はベント形蓄電池を含む屋外機器				

技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 6950-22:2019 規格名：情報技術機器—安全性—第 22 部：屋外に設置する機器

技術基準			該当	規格		補足
条	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
				11.1	<p>11.1 鉛蓄電池、ニッケルカドミウム蓄電池及びニッケル水素蓄電池による爆発の危険性</p> <p>通常の使用又は過充電中にガスが発生する可能性がある、制御弁式蓄電池又はベント形蓄電池を収容する区画は、適切に換気しなければならない。</p> <p>電池及び電気部品両方を含む区画では、電池と隣接する、アークが発生する部品（例えば、電池の弁又はバルブ近くにある接触器及びスイッチ）の作動が原因で、局所的に濃度が高まった水素及び酸素に着火する危険性を制限しなければならない。</p>	
第十条	火傷の防止	電気用品には、通常の使用状態において、人体に危害を及ぼすおそれがある温度とならないこと、発熱部が容易に露出しないこと等の火傷を防止するための設計その他の措置が講じられるものとする。	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	JIS C 6950-1 箇条 4 4.5.1 4.5.4	<第 1 部> 箇条 4 物理的要求事項 4.5.1 接触可能な部分が一定温度を超えないように防止しなければならない。 4.5.4 接触温度限度 操作者アクセスエリアにあるアクセス可能な部分の温度は、規定の値を超えてはならない。	
第十一 条第 1 項	機械的危険源による危害の防止	電気用品には、それ自体が有する不安定性による転倒、可動部又は鋭利な角への接触等によって人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を与えるおそれがないように、適切な設計その他の措置が講じられるものとする。	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	JIS C 6950-1 箇条 2 2.8.2	<第 1 部> 箇条 2 危険からの保護 2.8.2 保護要求事項 惰性で動き続ける可動部であって、機械的危険が引き続き存在する場合は、カバー、扉などを取り外したり、開けたり、引き出したりするには、安全とみなせる水準に	

技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 6950-22:2019 規格名：情報技術機器—安全性—第 22 部：屋外に設置する機器

技術基準			該当	規格		補足
条	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
		る。		2.8.8	達するまで、事前に動きを減少しなければならない。 2.8.8 機械的連動部 機械的安全インタロックシステム内の連動部分が安全に関与している場合は、それが過度のストレスを受けないことを確保するための予防措置を施さなければならない。	
				箇条 3	箇条 3 配線、接続及び電源の供給	
				3.1.2	3.1.2 機械的損傷に対する保護 配線経路は、導体の絶縁物に損傷を与えるおそれがないように、滑らかで、かつ、とがった縁があってはならない。	
				3.1.3	3.1.3 内部配線の固定 内部配線は、絶縁被覆の損傷、過度な張力が加わらないように引き回し、保持、締付け又は固定を行わなければならない。	
				3.1.5	3.1.5 ビーズ及びセラミック絶縁物 導体上のビーズ及びこれに類するセラミック絶縁物は、とがった縁又はとがった角に接触してはならない。	
				3.2	3.2 主電源への接続	
				3.2.7	3.2.7 機械的損傷に対する保護 電源コードは、機器の内部若しくは機器表面、又はコード引込口の開口部若しくは引込口ブッシングにある、鋭利な部分又は縁に接触しないようにしなければならない	

技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 6950-22:2019 規格名：情報技術機器—安全性—第22部：屋外に設置する機器

技術基準			該当	規格		補足
条	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
				3.2.8	3.2.8 コードガード 非着脱式電源コードをもち、かつ、手持形機器又は動作中に動かすことを意図した機器の電源コードの込口又はブッシングには、滑らかに角をとったつ（吊）り鐘状の開口部を備えなければならない。	
				3.2.9	3.2.9 電源配線用スペース 恒久接続用、又は一般用非着脱式電源コードの接続用に設けた電源配線用スペースのカバーは、電源導体又はその絶縁を損傷させるリスクなく取り付けることができなければならない。	
				箇条4	箇条4 物理的要求事項	
				4.1	4.1 安定性 機器及びユニットは、通常使用状態の下で操作者及びサービス従事者に危害を及ぼすおそれがあるような不安定な状態となってはならない。	
				4.2.9	4.2.9 高圧ランプ 高圧ランプの機械的エンクロージャは、通常使用時、又は操作者によるサービス時に操作者又は機器の近くににいる者に危険を及ぼさないように、ランプが爆発した場合、それを封じ込めるだけの十分な強度をもたなければならない。	
				4.3.1	4.3.1 縁（エッジ）及び角（コーナー） 機器の縁又は角が、操作者に危険が生じるおそれがある	

技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 6950-22:2019 規格名：情報技術機器—安全性—第 22 部：屋外に設置する機器

技術基準			該当	規格		補足
条	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
				4.3.6	場合は、丸め又は面取りの処理を施さなければならない。 4.3.6 ダイレクトプラグイン機器 ダイレクトプラグイン機器は、コンセントに過度の力が加わってはならない。	
				4.4	4.4 危険な可動部に対する保護（全細分箇条を含む。） 傷害を与える可能性がある機器の危険な可動部は、危険を取り除くために適切な保護手段を備えなければならない。	
				附属書 JA JA.4	附属書 JA シュレツダに対する要求事項 JA.4 操作者アクセスエリアにおける保護 機械的エンクロージャのあらゆる開口部に対して、テストフィンガを特別な力を加えずに押し込み、テストフィンガは、危険な可動部に接触してはならない。	
第 十 一 条第2項	機械的危険源による危害の防止	電気用品には、通常起こり得る外部からの機械的作用によって生じる危険源によって人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を与えるおそれがないように、必要な強度を持つ設計その他の措置が講じられるものとする。	■該当 □非該当	JIS C 6950-1 箇条3 3.2.4 3.2.6 箇条4	<第1部> 箇条3 配線、接続及び電源の供給 3.2.4 機器用インレット 機器用インレットは、コネクタを抜き差しするとき、機器用インレットの端子はんだ付け部に機械的応力が加わらない構造でなければならない。 3.2.6 コード留め及びストレーンリリーフ 非着脱式電源コードをもつ機器は、コード留めを施さなければならない。 箇条4 物理的要求事項	

技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 6950-22:2019 規格名：情報技術機器—安全性—第 22 部：屋外に設置する機器

技術基準			該当	規格		補足
条	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
				4.2.1	4.2.1 機器は、十分な機械的強度をもち、かつ、予期される取扱いにおいて、この規格で意図する危険を引き起こさない構造でなければならない。	
				4.2.8	4.2.8 ブラウン管 160 mm を超える最大表示面寸法をもつブラウン管は、規定の機械的強度に関する要求事項に適合しなければならない。	
				4.2.10	4.2.10 壁又は天井に取り付ける機器 壁又は天井に取り付ける機器の取付手段は、適切な強度をもつものでなければならない。	
				4.3.2	4.3.2 ハンドル及び手動操作 ハンドル、ノブ、グリップ又はレバーに取り外すような軸方向に規定の引張力を加え、耐えなければならない。	
				附属書 DD	附属書 DD ラックマウント形機器の搭載手段に関する要求事項（全細分箇条を含む。） ラック内に設置し、保守時などに引き出すことができる質量 7 kg を超える機器の搭載手段に、規定の引張り力を加えたとき、搭載手段に傷害が生じるおそれがある変形があつてはならない。また、ストッパは、機器を安全な位置に維持し、かつ、機器がスライドレールの端を越えてすり抜けてはならない。	
第十二条	化学的危険源による危害又は損	電気用品は、当該電気用品に含まれる化学物質が流出し、又は溶出することにより、	■該当 □非該当	JIS C 6950-1 箇条 2	<第 1 部> 箇条 2 危険からの保護	

技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 6950-22:2019 規格名：情報技術機器—安全性—第 22 部：屋外に設置する機器

技術基準			該当	規格		補足
条	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
	傷の防止	人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を与えるおそれがないものとする。		2.9.1	2.9.1 絶縁材料の特性 石綿（アスベスト）を含む材料は、絶縁物として用いてはならない。	
				箇条 4	箇条 4 物理的要求事項	
				4.3.8	4.3.8 電池 電池を内蔵する機器は、通常動作状態の下及び機器の中における単一故障が生じた後において、化学物質の漏液のリスクを低減するように設計しなければならない。	
				4.3.10	4.3.10 じんあい、粉末、液体及び気体 じんあい（例 紙粉）を生じる機器、又は粉末、液体若しくは気体を用いる機器は、通常の動作、貯蔵、充填又は空になっている間に、濃縮、蒸発、漏れ、こぼれ又は腐食によって、これらの物質が危険な濃度に達しにくく、かつ、この規格でいう危険が起こりにくい構造でなければならない。	
				JIS C 6950-22	<第 22 部>	
				箇条 11	箇条 11 制御弁式蓄電池又はベント形蓄電池を含む屋外機器	
				11.1	11.1 鉛蓄電池、ニッケルカドミウム蓄電池及びニッケル水素蓄電池による爆発の危険性 通常の使用又は過充電中にガスが発生する可能性がある、制御弁式蓄電池又はベント形蓄電池を収容する区画は、適切に換気しなければならない。	

技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 6950-22:2019 規格名：情報技術機器—安全性—第 22 部：屋外に設置する機器

技術基準			該当	規格		補足
条	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
					電池及び電気部品の両方を含む区画では、電池と隣接する、アークが発生する部品（例えば、電池の弁又はバルブ近くにある接触器及びスイッチ）の作動が原因で、局所的に濃度が高まった水素及び酸素に着火する危険性を制限しなければならない。	
第十三条	電気用品から発生される電磁波による危害の防止	電気用品は、人体に危害を及ぼすおそれのある電磁波が、外部に発生しないように措置されているものとする。	■該当 □非該当	JIS C 6950-1 箇条 4 4.3.13 4.3.13.1 4.3.13.2 4.3.13.4 4.3.13.5.1 4.3.13.5.2	<p><第 1 部></p> <p>箇条 4 物理的要求事項</p> <p>4.3.13 放射</p> <p>4.3.13.1</p> <p>機器は、放射による人体への有害な影響、及び安全性に関係ある材料の損傷のリスクを軽減するように設計しなければならない。</p> <p>4.3.13.2 電離放射線を発生する機器は、操作者アクセスエリアの表面から 50 mm 離れた箇所での照射率は、規定値以下でなければならない。</p> <p>4.3.13.4 人体の紫外線（UV）への暴露</p> <p>機器は、過度の紫外線を放射してはならない。</p> <p>4.3.13.5.1 レーザ又はレーザダイオードは、規定の波長で、クラス 1 の被ばく放射限界に適合しなければならない。</p> <p>4.3.13.5.2 光学的放射が規定する限度値を超える LED を含む機器は、規定の限度値を超える光学的放射が操作者アクセスエリアに現れる可能性を減らすための手段を</p>	

技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 6950-22:2019 規格名：情報技術機器－安全性－第 22 部：屋外に設置する機器

技術基準			該当	規格		補足
条	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
				附属書 H	備えなければならない。 附属書 H 電離放射線 電離放射線を放射するおそれがある機器は、操作者アクセスエリアの表面から 50 mm 離れた箇所での照射率は、規定値以下でなければならない。	
第十四条	使用方法を考慮した安全設計	電気用品は、当該電気用品に通常想定される無監視状態での運転においても、人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を与えるおそれがないように設計され、及び必要に応じて適切な表示をされているものとする。	■該当 □非該当	JIS C 6950-1 箇条 5 5.3.8	<第 1 部> 箇条 5 電気的要求事項及び異常状態の模擬 5.3.8 無人使用を意図する機器 無人使用を意図する機器で、サーモスタット、温度制限器及び温度過昇防止器を備える機器、又は接点に並列に接続するコンデンサを、ヒューズ若しくは同様のもので保護していない機器は、適切な保護機能を有し、異常動作及び故障状態でも機器を安全に保護しなければならない。	
第十五条第 1 項	始動、再始動及び停止による危害の防止	電気用品は、不意な始動によって人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を与えるおそれがないものとする。	■該当 □非該当	JIS C 6950-1 箇条 2 2.5 箇条 4 4.4.1	<第 1 部> 箇条 2 危険からの保護 2.5 有限電源 過電流保護デバイスを用いる場合、その保護デバイスは、ヒューズであるか又は調節不可能で自動復帰しない電気機械式デバイスでなければならない。 箇条 4 物理的要求事項 4.4.1 傷害を与える可能性がある機器の危険な可動部は、人体への傷害のリスクを低減するように配置するか、	

技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 6950-22:2019 規格名：情報技術機器—安全性—第 22 部：屋外に設置する機器

技術基準			該当	規格		補足
条	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
					囲うか、又は保護しなければならない。	
第 十 五 条第2項	始動、再始動及び停止による危害の防止	電気用品は、動作が中断し、又は停止したときは、再始動によって人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を与えるおそれがないものとする。	■該当 □非該当	JIS C 6950-1 箇条 2 2.8.3 2.8.6 箇条 4 4.4 4.4.1	<第 1 部> 箇条 2 危険からの保護 2.8.3 不慮の危険の再発生 安全インタロックは、カバー、防護物、扉などが閉位置以外の状態で、何かの拍子に危険が再び発生しないように設計しなければならない。 2.8.6 解除 サービス従事者が安全インタロックを解除する必要がある場合、作動させるために意図的な作業が必要なものではない。 箇条 4 物理的要求事項 4.4 危険な可動部に対する保護 4.4.1 傷害を与える可能性がある機器の危険な可動部は、不意の復帰によって危険が発生するおそれがある場合は、自動復帰形温度過昇防止器、過電流保護デバイス、自動タイマ起動装置などを組み込んでではない。	
第 十 五 条第3項	始動、再始動及び停止による危害の防止	電気用品は、不意な動作の停止によって人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を与えるおそれがないものとする。	■該当 □非該当	JIS C 6950-1 箇条 5 5.3.1 5.3.2	<第 1 部> 箇条 5 電氣的要求事項及び異常状態の模擬 5.3.1 過負荷及び異常動作に対する保護 異常動作又は単一故障の後で、機器は操作者に対する安全性を維持しなければならない。 5.3.2 モータ	

技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 6950-22:2019 規格名：情報技術機器－安全性－第 22 部：屋外に設置する機器

技術基準			該当	規格		補足
条	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
					過負荷、回転子拘束などの異常状態の下で、危険が生じ てはならない。	
第 十 六 条	保護協調及び組 合せ	電気用品は、当該電気用品を接続する配電 系統や組み合わせる他の電気用品を考慮 し、異常な電流に対する安全装置が確実に 作動するよう安全装置の作動特性を設定す るとともに、安全装置が作動するまでの 間、回路が異常な電流に耐えることができ るものとする。	■該当 □非該当	JIS C 6950-1 箇条 1 1.5.5 1.6.2 箇条 2 2.6.3 2.7 箇条 3 3.2.5.1	<第 1 部> 箇条 1 総則 1.5.5 相互接続ケーブル 機器の一部として備わっている相互接続ケーブルは、こ の規格の関連する要求事項に適合しなければならない。 1.6.2 入力電流 定常状態における機器の入力電流は、通常負荷をかけた 状態で、定格電流の 110 %以下でなければならない。 箇条 2 危険からの保護 2.6.3 保護接地及び保護ボンディング導体 (2.6.3.5 を 除き、全細分箇条を含む。) 保護接地導体及び保護ボンディング導体は、十分な電流 容量をもたなければならない。 2.7 一次回路における過電流及び地絡に対する保護 (2.7.2 及び 2.7.6 を除き、全細分箇条を含む。) 過電流、短絡及び地絡に対し、一次回路に適切な保護デ バイスを、機器の一部又は建造物の設備の一部を用いて 備えなければならない。 箇条 3 配線、接続及び電源の供給 3.2.5.1 交流電源コード 電源コードは、規定する値以上の断面積の導体をもたな	

技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 6950-22:2019 規格名：情報技術機器—安全性—第 22 部：屋外に設置する機器

技術基準			該当	規格		補足
条	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
				3.3 3.3.4 3.3.5 箇条6 6.3	<p>なければならない。</p> <p>3.3 外部導体接続用の配線端子</p> <p>3.3.4 端子は、規定の公称断面積をもつ導体を接続でなければならない。</p> <p>3.3.5 ピラー形、スタッド形又はねじ式の端子は、規定の最小寸法以上のものでなければならない。</p> <p>箇条6 ネットワーク線への接続</p> <p>6.3 ネットワーク配線システムの過熱保護</p> <p>ネットワーク配線システムを介して、離れた場所の機器に電源を供給する機器において、機器から連続して流れる電流の値は、当該機器の設置説明書に指定された最小線径の電線に適した電流限度値を超えてはならない。</p>	
第十七条	電磁的妨害に対する耐性	電気用品は、電氣的、磁氣的又は電磁的妨害により、安全機能に障害が生じることを防止する構造であるものとする。	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	JIS C 6950-1 箇条2 2.10.3 箇条5 5.3.1	<p><第 1 部></p> <p>箇条2 危険からの保護</p> <p>2.10.3 空間距離（全細分箇条を含む。）</p> <p>空間距離は、機器に流入する過渡電圧を含む過電圧、及び機器内で発生するピーク電圧に対応した寸法にしなければならない。</p> <p>箇条5 電氣的要求事項及び異常状態の模擬</p> <p>5.3.1 過負荷及び異常動作に対する保護</p> <p>機器は、機械的若しくは電氣的な過負荷、故障、異常動作又は不注意な使用によって、火災又は感電のリスクが生じないように設計しなければならない。</p>	

技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 6950-22:2019 規格名：情報技術機器—安全性—第 22 部：屋外に設置する機器

技術基準			該当	規格		補足
条	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
				JIS C 6950-22 箇条 4 4.2 4.2.1	<第 22 部> 箇条 4 屋外機器の要件 4.2 主電源 4.2.1 一般要求事項 主電源で動作する屋外機器は、設置場所で予想される最高の主電源過渡電圧に適していなければならない。	
第 十 八 条	雑音の強さ	電気用品は、通常の使用状態において、放送受信及び電気通信の機能に障害を及ぼす雑音を発生するおそれがないものとする。	<input type="checkbox"/> 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当	—	—	J55032 等の規格を適用する。
第 十 九 条	表示等（一般）	電気用品は、安全上必要な情報及び使用上の注意（家庭用品品質表示法（昭和三十七年法律第百四号）によるものを除く。）を、見やすい箇所に容易に消えない方法で表示されるものとする。	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	JIS C 6950-1 箇条 1 1.7.1.1 1.7.6 1.7.7.2 1.7.8.1	<第 1 部> 箇条 1 総則 1.7.1.1 電源定格表示 操作者が設置することを意図した機器の場合、規定する電源定格表示は、操作者アクセスエリアで容易に見えなければならない。 1.7.6 ヒューズの識別 ヒューズ若しくはヒューズホルダの近傍又はヒューズホルダ表面にヒューズの定格電流を示す表示がなければならない。 1.7.7.2 交流主電源導体用端子 ねじ部などの、導体を接続する場合に取り外すおそれがある部分には、相識別等の表示を行ってはならない。 1.7.8.1 識別、配置及び表示	

技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 6950-22:2019 規格名：情報技術機器—安全性—第 22 部：屋外に設置する機器

技術基準			該当	規格		補足
条	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
				1. 7. 9	スイッチなどのコントロールに用いる表示及び指示は、スイッチ若しくはコントロールそのもの、又はその隣接位置になければならない。 1. 7. 9 複数電源の分離 サービス従事者が危険な部分にアクセスするときの入口近傍によく目立つように、どの電源遮断装置が機器全体を完全に分離し、また、どの電源遮断装置が機器の各部を分離できるのかを示す表示を行わなければならない。	
				1. 7. 11	1. 7. 11 耐久性 この規格で要求する表示は、耐久性があり、かつ、容易に判読できなければならない。	
				1. 7. 12	1. 7. 12 取り外すことができる部分 この規格で要求する表示は、取り替えることによって表示が誤解される可能性が生じる場合は、取外し可能な部品の表面に行ってはならない。	
				1. 7. 13	1. 7. 13 交換可能な電池 交換することができる電池を用いる機器で、かつ、間違った種類の電池に交換すると爆発が生じる可能性がある場合は、適切な場所に注意表示を表示しなければならない。	
				箇条 3	箇条 3 配線、接続及び電源の供給	
				3. 4. 10	3. 4. 10 相互接続形機器 個々に電源接続できる相互接続するユニットには、その	

技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 6950-22:2019 規格名：情報技術機器—安全性—第 22 部：屋外に設置する機器

技術基準			該当	規格		補足
条	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
				3. 4. 11	<p>ユニットから全ての電力を取り除くために必要な事項を適切に指示した、容易に人目に付くラベルをユニットごとに備えなければならない。</p> <p>3. 4. 11 複数の電源</p> <p>複数の電源から電力を受けるユニットの遮断デバイスには、そのユニットから全ての電源を取り除くために必要な事項を適切に指示した、容易に人目に付く表示をしなければならない。</p>	
				箇条 4	<p>箇条 4 物理的要求事項</p>	
				4. 3. 13. 4	<p>4. 3. 13. 4 人体の紫外線 (UV) への暴露</p> <p>使用者及びサービス従事者がアクセスする全ての扉又はカバーに、サービス中に容易に見える場所に規定の警告表示がなければならない。</p>	
				4. 4. 2	<p>4. 4. 2 操作者アクセスエリアにおける保護</p> <p>可動部分を停止するための警告手段は、目に付く場所に置き、容易に見ることができ、かつ、傷害によるリスクが最も大きい箇所からアクセス可能な位置に設置しなければならない。</p>	
				箇条 5	<p>箇条 5 電気的要求事項及び異常状態の模擬</p>	
				5. 1. 8. 2	<p>5. 1. 8. 2 ネットワーク線からのタッチカレントの総量</p> <p>他のネットワーク線機器と接続するために複数のネットワーク線接続ポートをもつ供試機器には、使用する適切な保護導体の情報を記載したラベルを、恒久接地接続部</p>	

技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 6950-22:2019 規格名：情報技術機器—安全性—第22部：屋外に設置する機器

技術基準			該当	規格		補足
条	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
				附属書 JA JA. 1 JIS C 6950-22 箇条 5	の近傍に貼らなければならない。 附属書 JA シュレツダに対する要求事項 JA. 1 表示及び取扱説明書 文書投入口の近傍の見やすい箇所に、明瞭に判読でき、容易に消えない方法で、かつ、理解しやすい用語によって、規定する図記号及び使用上の注意事項を表示しなければならない。 <第 22 部> 箇条 5 表示及び指示 屋外機器の設置指示書には、屋外場所の条件から保護するために必要な条件を詳細に記載しなければならない [JIS C 6950-1 の 1.7.2 (安全性に関する指示及び表示) 参照]。 屋外エンクロージャを JIS C 0920 に基づいて分類する場合、屋外エンクロージャの製造業者は、IP コードを宣言しなければならない。ただし、屋外エンクロージャ上には、IP コードを表示する必要はない。	
第 二 十 条第1号	表示（長期使用 製品安全表示制 度による表示）	次の各号に掲げる製品の表示は、前条の規定によるほか、当該各号に定めるところによる。 一 扇風機及び換気扇（産業用のもの又は電気乾燥機（電熱装置を有する浴室用のもの	<input type="checkbox"/> 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当	—	—	—

技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 6950-22:2019 規格名：情報技術機器－安全性－第22部：屋外に設置する機器

技術基準			該当	規格		補足
条	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
		<p>のに限り、毛髪乾燥機を除く。)の機能を兼ねる換気扇を除く。) 機器本体の見やすい箇所に、明瞭に判読でき、かつ、容易に消えない方法で、次に掲げる事項を表示すること。</p> <p>(イ) 製造年</p> <p>(ロ) 設計上の標準使用期間（消費生活用製品安全法（昭和四十八年法律第三十一号）第三十二条の三第一項第一号に規定する設計標準使用期間をいう。以下同じ。）</p> <p>(ハ) 設計上の標準使用期間を超えて使用すると、経年劣化による発火、けが等の事故に至るおそれがある旨</p>				
第二十条第2号	表示（長期使用製品安全表示制度による表示）	<p>二 電気冷房機（産業用のものを除く。）機器本体の見やすい箇所に、明瞭に判読でき、かつ、容易に消えない方法で、次に掲げる事項を表示すること。</p> <p>(イ) 製造年</p> <p>(ロ) 設計上の標準使用期間</p> <p>(ハ) 設計上の標準使用期間を超えて使用すると、経年劣化による発火、けが等の事故</p>	<input type="checkbox"/> 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当	—	—	—

技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 6950-22:2019 規格名：情報技術機器－安全性－第22部：屋外に設置する機器

技術基準			該当	規格		補足
条	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
		に至るおそれがある旨				
第二十条第3号	表示（長期使用製品安全表示制度による表示）	三 電気洗濯機（産業用のもの及び乾燥装置を有するものを除く。）及び電気脱水機（電気洗濯機と一体となっているものに限り、産業用のものを除く。） 機器本体の見やすい箇所に、明瞭に判読でき、かつ、容易に消えない方法で、次に掲げる事項を表示すること。 （イ） 製造年 （ロ） 設計上の標準使用期間 （ハ） 設計上の標準使用期間を超えて使用すると、経年劣化による発火、けが等の事故に至るおそれがある旨	<input type="checkbox"/> 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当	—	—	—
第二十条第4号	表示（長期使用製品安全表示制度による表示）	四 テレビジョン受信機（ブラウン管のものに限り、産業用のものを除く。） 機器本体の見やすい箇所に、明瞭に判読でき、かつ、容易に消えない方法で、次に掲げる事項を表示すること。 （イ） 製造年 （ロ） 設計上の標準使用期間 （ハ） 設計上の標準使用期間を超えて使用すると、経年劣化による発火、けが等の事故	<input type="checkbox"/> 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当	—	—	—

技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 6950-22:2019 規格名：情報技術機器—安全性—第 22 部：屋外に設置する機器

技術基準			該当	規格		補足
条	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
		に至るおそれがある旨				